

つどい

青森県偕行会防衛協力団体 合同による講話と新年交歓会

青森県偕行会は、令和2年1月19日、弘前市内ホテルにおいて、津軽地区（青森県西部）の防衛協力5団体（青森県偕行会、隊友会中弘支部、同南津軽支部、弘前市自衛隊家族会、郷友会弘前支部）共催による「講話と新年交歓会」を行った。合同での開催は平成29年から行われた。今年で4年目となる。

防衛講話は、前外務副大臣佐藤正久参議院議員を講師に迎えて、「令和の時代を迎えて最新の安全保障事情」と題して、参加者160を超える会員等を前に行われた。

佐藤講師は、北朝鮮のミサイル開発の現況と中東アラビア海での海上自衛隊の活動を分かりやすく約1時間語られた。特に、北朝鮮のミサイルは日本を目標とされたものである。朝鮮半島DMZ韓国側西部には、韓国国民の半数約2700万人が、漢江以北に集中して暮らすなど北朝鮮の攻撃に対し極めて脆弱である。中東における海上自衛隊の活動では、米国はじめ活動中の同盟国・仲間としての

責務、護衛艦と固定翼偵察機の働きを、具体的に強調され大変良く理解できた。

新年交換会では、弘前市長、地元選出木村次郎衆議院議員及び講師を務めた佐藤正久参議院議員からの祝辞があり、共催団体の青森県会長が、伊藤哲也偕行会会長、三上敬治隊友会会長、野呂和生自衛隊家族会会長及び三又芳雄郷友会会長の4名が青森市から参加されていることと併せ紹介された。

祝宴では、会員による祝吟、社交ダンスが披露され、カラオケでは大変盛り上がり、4時間におよんだ合同による講話と新年交歓会は、3月22日の「旧弘前偕行社開館式」及び令和初の花見での再会を期して散会した。

事務局長 稲村孝司陸自75期記

